

# 身に付けるべき能力の目標水準（素案）とロードマップイメージについて

---

ICT活用のためのリテラシー向上に関する検討会  
事務局

## 【身に付けるべき能力の定義】

- 消費生活では、ネット上での契約などのトラブルが多い。契約関係の問題や経済的なトラブルについても定義に記載するとよい。(石田構成員)
- レベル1の記載について、否定的なものから肯定的な書き方に変えた方がよい。最低限必要な資質や支援に関する知識を持つということレベル1にしたらいいのではないか。(坂本構成員)
- 事務局の素案は、情報の読み取りや発信に重きが置かれている。インターネットの包括的なリスクに対する対策としてe-ネットキャラバンの教材やILASがあるので、その活用方法を考える。その際に、商業ベースの広告に対して適切な判断ができるようになることが大事である。(齋藤構成員)
- DigCompは能力を円の形で記載しており順番はないと考えられるところ、1～5と番号を振ると重要性に優劣があるのかとってしまう。記載の順番について議論できればよい。安全に関する能力があって、その上でデジタルコンテンツの作成・編集に関する能力がある。また、デジタルツールの使用は便利ではあるものの必要不可欠なものではないので、順番は最後でよいのではないか。(上沼構成員)
- デジタルコンテンツの作成・編集に関する能力の中に、著作権やコンテンツの利用許諾がどのように適用されるかということが含まれているが、これはデジタルに関わる法律回りの話とする形で理解しておくべき話である。(上沼構成員)
- 能力の定義内容や、それぞれの習熟度について詰める必要がある。(山本座長)

## 【身に付ける能力のレベル】

- 5つの能力を全てレベル4まで持てる人は少ないと思うので、最低限到達すべきレベルを決めておくべき。  
(中村座長代理)
- どのようにして5つの能力を身に付けてもらうのか。青少年向けには、民間の取り組みも含めて既に様々な取組があるが、それでも不十分であるものを、さらに全世代で実装していくことをゴールとしているので、難しいと思う。  
(中村座長代理)
- ICTリテラシーを身に付けるのは際限がない中で、どのくらいの時間をかけて、どのレベルまで目指すのか。  
(古田構成員)

## 【具体的な能力と習熟度レベル】

- インスタグラムやYouTube等のサービスは利用しているが、きちんとした行動を取れていない場合はレベル2に該当するのか、それともレベル3に該当するのか分かりにくい。  
(石田構成員)
- 現在問題となっているフィルターバブルがどの能力の、どのレベルに含まれるのか。具体的な能力をイメージしづらい。UNESCOの記載のように例示するか言葉で説明を加えれば分かりやすくなるのではないか。  
(石田構成員)

## 【その他】

- レベル2からレベル4のレベル感はよい。既に総務省で実施している事業と紐付け、我々がやるべき部分を位置づけていく必要がある。例えば、レベル2については、全ての人がデジタルを活用した行政・民間サービスを受けることができるよう、デジタル活動推進事業を行っていると思う。レベル3については、e-ネットキャラバンやe-ネットキャラバンPlusを既に実施しており、そのバージョンアップになるのでは。レベル4については、地方発デジタルコンテンツコンテストや、デジタル映像祭、グローバルコミュニケーション計画など、社会の課題の解決とか、民主的な社会の発展にデジタル技術を活用する取り組みがある。  
(坂本構成員)
- どのレベルまで目指すのか、誰が担うのかを引き続き検討する必要がある。(山本座長)
- 成年層や高齢者層にどのように接触するのか、引き続き議論していく必要がある。(山本座長)

## 2. 身に付けるべき5つの能力（素案）

### 世代共通の課題

(1) インターネット上で自分の好みの情報や自分と似た意見に触れやすくなる特性・仕組みの理解

(2) 情報を理解するリテラシー（事実と意見、推測、判断、行動の切り分け等）の習得

(3) インターネット上の情報を熟慮する機会の確保

(4) デジタル空間における情報発信者としての意識や社会参加への意識の醸成

### 課題に対応する能力の要素

インターネットに関する特性の理解・・・a

必要な情報を明確にし、見つけて取得する能力・・・a

情報源の信頼性の分析・・・a

デジタル空間の公共性の理解・・・c

デジタル技術を通じて社会参加し、他者と円滑に交流できる能力・・・c

デジタルコンテンツを作成・編集する能力・・・d

ネット上の違法・有害情報のリスクの理解・・・b

ネット上での不適切な振舞に伴うリスクの理解・・・b

デジタル技術を用いて課題解決できる能力・・・e

### 身に付けるべき5つの能力（素案）

a. データや情報、デジタルコンテンツを検索、評価、管理する能力

b. **デジタル空間において安全を確保する能力**

c. **デジタル技術を通じて他者や社会と関わる能力**

d. **デジタルコンテンツの作成・編集に関する能力**

e. デジタル技術の利用に当たっての課題解決やデジタルツールを用いた課題解決に関する能力

それぞれの能力の  
習熟度の度合いを  
Lv.1～4で整理

### 3. 身に付けるべき5つの能力の定義（素案）

#### a. データや情報、デジタルコンテンツを検索、評価、管理する能力

- 必要な情報を明確にし、データ、情報、及びデジタルコンテンツを見つけて取得すること。
- 情報源の信頼性を分析し、比較し、批判的に評価すること。
- 検索結果の表示順の仕組みや、自分の好みの情報や自分と似た意見に触れやすくなるインターネットの特性、検索結果を導き出すために必要な知識を持つこと。
- データ、情報、デジタルコンテンツを保存、管理、整理すること。

#### b. デジタル空間において安全を確保する能力

- デジタル環境でデバイス、デジタルコンテンツ、個人データ、プライバシーを保護すること。その際、個人データが商業目的で利用されることを理解すること。
- 身体的及び精神的な健康を保つこと。
- 先端技術が新しいリスクを伴う恐れがあることを理解すること。
- インターネット上の違法・有害情報や偽・誤情報のリスクを理解し対処すること。
- インターネット上での不適切な振舞いのリスクを理解し対処すること。

#### c. デジタル技術を通じて他者や社会と関わる能力

- デジタル空間の公共性の理解、他者の権利の尊重、文化や世代の多様性及び民主的社会参加の重要性を意識しながら、デジタル技術を活用し、他者との交流やコミュニケーション、共同して作業すること。
- デジタル技術が社会的包摂に資することを認識すること。
- 自分のデジタル空間でのプレゼンス、アイデンティティ、評判を管理すること。

#### d. デジタルコンテンツの作成・編集に関する能力

- デジタルコンテンツを作成、編集すること。
- 著作権やコンテンツの利用許諾等の各種法令の適用に留意しながら新たな情報やコンテンツを既存の知識や資源と統合し新たなコンテンツや知識を創造すること。

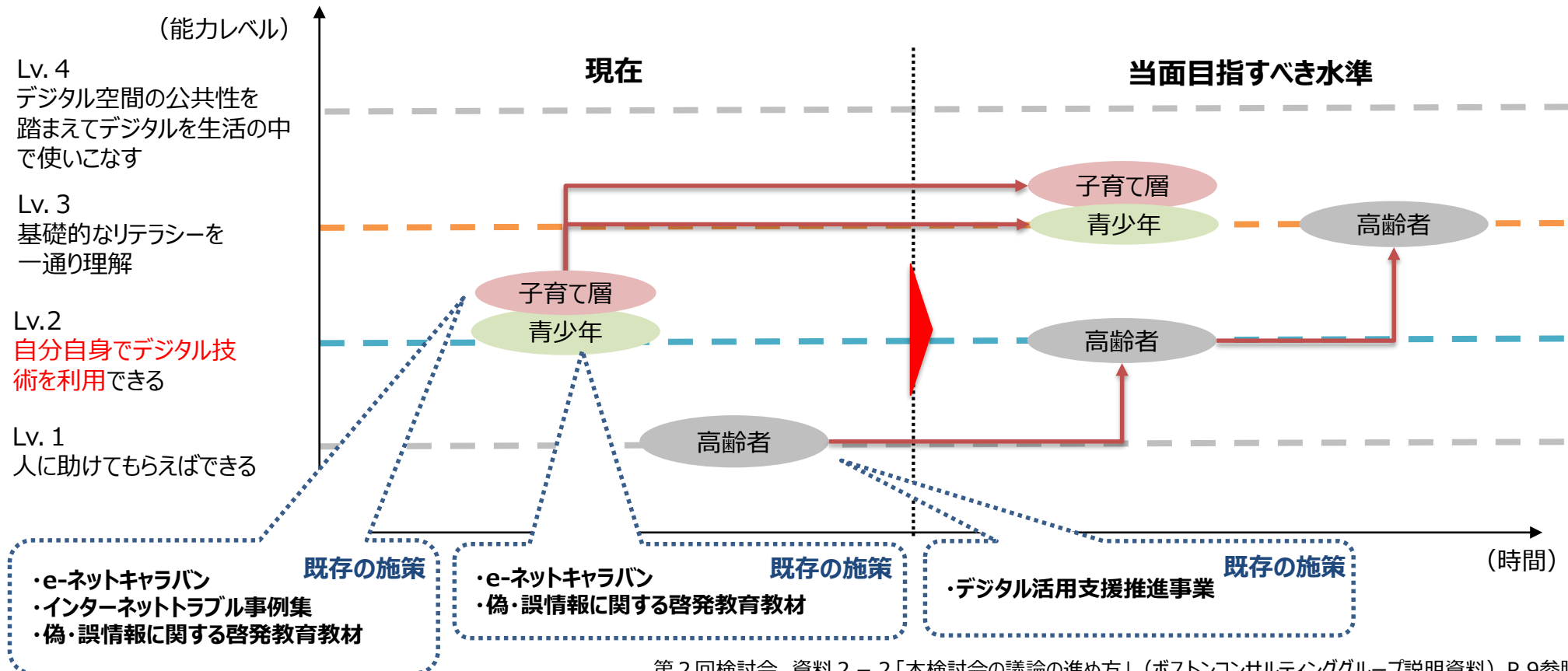
#### e. デジタル技術の利用に当たっての課題解決やデジタルツールを用いた課題解決に関する能力

- デジタル技術の進展に対応しつつ、自身のニーズに応じたデジタルツールを選択すること。
- デジタル技術の活用に当たり課題を特定し、解決すること。
- デジタル技術を活用して、課題を解決すること。

## 4. 身に付けるべき能力の目標水準（素案）

### 【考え方】

- P4の世代共通の課題は、最低限デジタルを活用できる者が、SNSを始めとしたインターネット上で情報を受発信する際に直面する課題。従って、**自分自身でデジタル技術を利用できる者**（子育て層や青少年の多くが含まれることを想定）は、**レベル3（基礎的なリテラシーを一通り理解）**を当面目指すべき水準としてはどうか。
- **他人に助けられればデジタルを活用できる者**（高齢者の多くが含まれることを想定）は、**まずはレベル2（自分自身でデジタル技術を利用できるレベル）**を当面目指すべき水準としてはどうか。
- これらの目標水準の設定に当たっては、現状の水準がどの程度なのかの根拠の把握が前提となることから、令和5年度に実態の調査を行うことにより、当該目標水準の適正性を確保することとしてはどうか。





# 今後の取組の柱を整理した「ロードマップ」イメージ

- これまでの検討結果を踏まえて、**本年夏を目途に今後の取組の柱を整理したロードマップを取りまとめることとする。**
- 当該ロードマップには、以下の**短期的に取り組む事項**と**中長期的に取り組む事項**を整理。
- 短期的に取り組む事項は、主に「**3. リテラシーの全体像と指標の作成**」や「**4. 世代共通課題**」に対応した**教材の開発**や**効果的な届け方の整理**を想定。

## <ロードマップイメージ>

### 1. 検討会における議論の全体枠組み（フレームワーク）

### 2. 目指すべきゴール像

- ① デジタル社会で様々なリスクに対処して安全を確保しつつ、自身の目的に応じて、適切に情報やICTを活用し、課題解決できること。
- ② デジタル社会の構成員として、他者への影響に配慮し、健全な情報空間確保のための責任ある行動を取ることができること。（情報の批判的受容、責任ある情報発信、プライバシー・著作権への配慮等）
- ③ ICTやオンラインサービス、社会的規範の変化に的確に捉え、①②ができること。

### 3. リテラシーの全体像と指標の作成

- ゴール像実現のために必要な能力や到達すべき習熟度レベルの整理
- 測定方法としてのリテラシー指標の作成

### 4. 世代共通課題

- 共通課題の深掘り
- 教材開発
- 届け方の整理（プラットフォーム事業者との連携方策など）

短期的に取り組む事項

青少年

子育て層

高齢者

### 5. 対象層の特徴分析

#### 6. 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

#### 6. 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

#### 6. 対象層の特徴を踏まえた対策

- 教材開発
- 届け方の整理

中長期的に取り組む事項

### 7. 教える人材の育成

- 候補者の整理
- 教える人向けの教材のあり方